

ミズベリング勉強会(9) RiverCycRingProjectで観光まちづくり

日時: 令和元年7月26日(金) 13:15~17:15
 場所: さいたま市さいたま新都心合同庁舎2号館大研修室5A
 参加者: 24団体35人(民間8、大学3、自治体5、国等8)

1. 関東のミズベリング勉強会
 【関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼 尚史】
2. RiverCycRingProjectに期待すること
 【関東地方整備局 河川部長 佐藤 寿延】
3. 水辺の3R 日頃使わない神経を「水辺」が刺激する。
 【杏林大学名誉教授、日本ブレインヘルス協会理事長 古賀 良彦】
 ※関東RiverCycRingステージアドバイザー
4. 地域の資源を磨くことで「もてなし力」がつく
 【一般社団法人 まちの魅力づくり研究室 理事、東京大学名誉教授 堀 繁】
 ※関東RiverCycRingステージアドバイザー
5. 「観るなび」・ツーリズムEXPOジャパン
 【日本観光振興協会事業推進本部 旅行振興部 部長 加藤 克志】
6. 「旅して楽しいRiverCycRing」パンフレット構想
 【関東地方整備局河川環境課 課長補佐 黒沼 尚史】
7. パネルディスカッション
 テーマ: 「異業種コラボは水辺空間の可能性をどのように創造するか？」



- ・サイクリングは五感+αの刺激があり、水辺のサイクリングはストレスの軽減効果で生産性向上に寄与する→水辺の3R Rest, Relaxation, Recreation
- ・普通の人、どうしたら自分でサイクリングをやってみようと思うのか？
 →「走るために休む」ではなく、「休むために走る」で楽しい休憩拠点が重要
- ・人間を大事にしない整備は絶対に利用されない。
- ・人は何を評価しているか？→感じる雰囲気:大事にしている、歓迎している、丁寧
- ・河川のサイクリングロードはトイレが少ない→女性にも使いやすい施設整備を。
- ・集客施設を魅力的に見せるための三種の神器
 →挨拶の装置(こんにちは):植物、
 →歓迎の装置(いらっしやいませ):のれん・ベンチ・照明・木のドア
 →集客の装置(買ってってください):看板、メニュー、商品(サンプル)、のぼり
- ・ベンチは出来るだけ多く、クオリティー(丁寧さ)が重要
- ・水辺空間の可能性について→水辺そのものの魅力の発掘が必要
- ・どう変えていこうか、ではなく、今ある町そのものをどう見せるかという観点も
- ・コンテスト特別賞設定地域を繋ぐ東武鉄道→鉄道とシェアサイクルの相性はよい。観光まちづくりへの可能性を感じる。提案プランとの連携に期待
- ・勉強会や産官学連携に協力してくれる広域展開企業も募集



・都市再生整備計画による国管理河川のオープン化を関東地方で初めて計画策定した大田区立花副参事紹介。勉強会をキッカケに堀先生と連携。京浜河川と早い時期から連携
 ・来年ミズベリングを始めたい長野大学の学生が参加。来年のコンテスト参加に期待
 ・RiverCycRingステージ参加の明治大学木寺ゼミ学生に堀先生の集中講義状態